

第155回東葛しぜん観察会

飛来地南限のオオハクチョウや冬鳥を観よう

木村将夫（柏市）

日時：2019年2月3日（日）9時30分～12時 天気：快晴

場所：西白井清水口調整池（白井市）

参加者：23名 参加指導員15名、担当指導員：龍門 片岡 木村

立春を明日に控えた今冬一番の寒さを予想していましたが、参加者及び関係者の日頃の行いが良かったのでしょうか、冷たい北風が止み、素晴らしい天候に恵まれました。

今年のハクチョウの飛来数は、オオハクチョウ34羽、幼鳥2羽、コハクチョウ4羽の合計40羽で、例年よりは多いと地元で餌の面倒をみているボランティアの方からの情報でした。オオハクチョウも好天に誘われるように10羽くらいが隊列を組んで水面を優雅に滑るように泳いでいました。参加者の方々も素晴らしい「白鳥の湖」の光景だと感嘆の声が聞かれました。オナガガモ・コガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・オオバン・カワウ・コサギ・ゴイサギの幼鳥などが観察できました。特に各班単位でスコープ担当者が目標の鳥をしっかりと全員に観せることができ、感激していました。現地への途中には紅白の梅が咲いており、メジロが可愛い姿を見せてくれました。カワラヒワの群れも見られ、池のほとりの赤松の枯れた幹にはコゲラが虫を探している姿を全員しっかりと見ることができました。残念ながらツグミとカワセミの姿は観察できませんでした。

調整池の隣接の公園には、6～7本のイスノキが植えられており、たくさんの虫コブを発見できました。皆で拾った虫コブでストローを使って虫笛（ヒヨンの笛）を吹いて楽しみました。風が吹くと虫コブがヒヨンヒヨンと鳴るのでイスノキはヒヨンの木と言われているとの説明に納得していました。池の周りには20～30mくらいの高さのユーカリの木が茂っており、特異な景観に参加者から数々の質問がありました。指導員から植林された理由として、ユーカリは薬用で殺菌作用があり、虫除け・蚊除けの効果で、池から発生する蚊などの予防と環境の悪化を防いでいるとの説明を聞き感心していました。

最後のコーナーでは運よくオオハクチョウの幼鳥が2羽日向ぼっこで休んでいました。首の部分や羽の一部にまだ灰色が残っており、嘴の色は未だ黄色に染まっていませんでした。参加者には大変珍しく、なかなか現場を離れないため、時間担当の指導員が時間の調整にご苦労があったようです。

最後に参加者からは「こんな便利な住宅街にハクチョウやたくさんの冬鳥を観察出来て素晴らしい観察会でした」との感想が寄せられました。



ヒヨンの笛を吹く



ハクチョウが日向ぼっこ：寝ていますか？